

基本目標	安全でおいしい水道水を安定して供給する	期 間	令和5年度から 令和32年度まで
------	---------------------	-----	---------------------

経営理念	運営基盤（組織・施設・財政）を強化し、災害に強く持続可能な水道を目指します。
------	--

運営方針	安全	すべてのお客様が安心して飲める安全で良質な水道を目指します。
1		

施策の柱

① 安全で良質な水道水質の確保

■水道事業の日常運転管理の中で、水安全計画の妥当性確認と実施状況の検証によって改善を重ね安全な水質を維持します。

■R10年度には上水道事業創設から100周年を迎えることから、水道事業への関心を高めてまいります。

② 広域交通拠点周辺の水道施設整備

■リニア中央新幹線長野県駅周辺及びアクセス道路等のインフラ整備に合わせ、将来の水需要を考慮した水道施設を整備します。

①指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
平均残留塩素濃度	mg/L	0.27	0.3 以下	↓

・給水栓での残留塩素濃度の平均値。

【残留塩素濃度合計/残留塩素測定回数】

①-2指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
最大カビ臭物質濃度		20	50 以下	↓
水質基準比率	%			

・カビ臭物質濃度の最大値の水質基準に対する割合。

【最大カビ臭物質濃度/水質基準値】

運営方針	持続	お客様と共に歩み、将来にわたって持続可能な水道を目指します。
3		

施策の柱

⑥ 経営基盤の強化

■長期財政見通し（経営戦略）の見直しにより、進捗管理を行います。

■水道使用量減少時代に適合し、受益者負担の原則に沿ったより適切な水道料金を設定します。

⑦ 水道の広域化・D Xの取組・人材の育成

■長野県が策定する「水道広域化推進プラン」に基づき、当地域の実情に合った広域化に取り組めます。

■水道インフラのデジタル化について研究していきます。

■簡易水道事業に関し、良質で安定した給水確保等、維持管理の在り方を研究します。

運営方針	強靱	災害等による被害を最小限に留めると共に、危機管理体制の充実した水道を目指します。
2		

施策の柱

③ 管路の計画的な更新と耐震化

■管路経年化率（実耐用年数）を超える管路及び基幹管路の耐震化を進めます。

④ 浄・配水施設の計画的な更新と耐震化

■物理的評価点75%以上の施設から、施設劣化度の優先度が高い施設を更新、耐震化を進めます。

⑤ 災害に対応した適切な管理と仕組み作り

■浄・配水及び給水に必要な物資の計画的な備蓄を行います。

⑧ ゼロカーボンへの取組

■浄・配水施設の計画的な更新に合わせ、施設の統廃合や設備の見直しを行い、二酸化炭素排出量削減に取り組みます。

⑥指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
経常収支比率 （事業の収益性）%		102.9	100 以上	↑

・経常収益（営業収益＋営業外収益）を経常費用（営業費用＋営業外費用）で割ったもの。

③指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
管路経年化率 （実耐用年数）%		4.0	10.0 以下	↓

・管路の延長に対する実耐用年数を超えている管路の割合。

④指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
配水池の耐震化率	%	60.4	75.0	↑

・全配水池容量に対する耐震対策を行った配水池の容量の割合。

【耐震対策の施された配水池有効容量/配水池有効容量】

■妙琴浄水場の更新を進めると共に、野底浄水場配水系統への補水能力を更に高めます。

⑥-2指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
料金回収率	%	89.2	100 以上	↑

・供給単価（水道料金の平均単価）を給水原価（水を作るのにかかる経常コスト）で割ったもの。

⑥-3指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
累積欠損金比率 （事業の健全性）%		0	0	↓

・累積欠損金（赤字の累計）を（営業収益－受託工事収益）で割ったもの。

⑧指標	単位	R 3 現在	目標	望ましい方向
配水量1㎡当たりの 電力消費量（kWh/㎡）		0.33	現状 維持	↓

・配水量1㎡当たりの消費エネルギー量の割合